

別記様式(第4条関係)



戸田市議会研修・視察報告書(会派名: 戸田の会 )

2年 8月21日

手塚議長

報告者氏名 浅生和英

実施日	2年7月22日(水)～ 2年7月22日(水)		0泊 1日
参加者	1	浅生和英	6
	2		7
	3		8
	4		9
	5		10
			合計 1人
視察先・目的	研修場所 目的 議員定数・議員報酬研修		
	1 アットビジネスセンター池袋駅前 別館貸し会議室 東京都豊島区東池袋1-6-4 伊藤ビル9階		
	2		
	3		
	4		
宿泊場所	1		
	2		
	3		
費用	宿泊費(泊)		食事代(日)
		円	円
	交通費	840円	研修費
			25,440円
	その他		合計
		円	26,280円
備考			

今回の研修は、議会運営委員会での議員定数・報酬についての審議するにあたり、議会事務局より当研修の情報提供があり、参加に至った経緯がある。

概要

◇議員定数について

○議員定数の議論は、地域や同規模他市と横並びの原理がメジャーではあるが、それでは減らす一方となるだろう。何らかの根拠を持って住民理解をを求め得ていく。

○議員定数は条例のみで規定されている。

○議員定数削減と同時に員報酬を上げる、理由は1人の仕事量は増えるから。又、専門が増えていることから生活も考慮する。

○議員定数は基本的に人口比例方式で考えるべき。

○財政を気にするなら定数を削減する前に、報酬を先に削るべき。

○最近では、行政が市民の声を聴いてくれるようになっていて、誰もが役所へ要望できる状況ではあるが、市民一人の声と、議員の声を重さは違う。議員は住民の負託を受けているかどうか大きな違いである。

○議員定数の議論は選挙のネタとなりやすく、減すべき理論となりやすい。大切なことだけに特に選挙の一年前は議論しない方が良い。

○議員定数における視点

①議事機関としての権能・・・委員会での審議機能

②立法機関としての権能発揮・・・政策立案、少数精鋭、専門知識

③監視機関としての権能発揮・・・執行行政を監視するには、住民の意向の取りこぼしが無いよう、人数がいた方が良い。しかし、人数が多いと意思決定が遅くなる、

①が一番重要だと考える。

「講師よりQ。議会事務局の人数増加の条例案をあげたところがありますか？」

A。あまりない。

横浜市は増やしている。

議会事務局調査能力は非常に重要である。補佐体制を整える

→横浜市会ジャーナル参照」

○議員定数アンケートは無駄である、とらない方が良い。根拠の無い答えで定数を減らす事になる。住民の意見に左右されすぎるのは問題である。

○普段の議員活動が見えないことが定数削減の声が出る原因であると考えればもっと広報活動に力を入れるべき

○全国的に見ると女性議員が少ない

\*ここまでで、横並びだけで議員定数を削減してはならないことが理解出来た。

○議会費の決算に占める割合が0.78%、減らしても変わらない。

◎議員定数の算定方式

①常任委員会数方式 戸田市の場合・・・1番重要と考える。

②人口比例方式

③住民自治協議会方式（又は小学校区方式）

④議会費固定方式

⑤類似都市との比較方式（人口規模・財政状況）

⑥面積・人口方式

「戸田市の場合

現在、議会費0.8%

定数と報酬はそもそも関係ないが、市民への負担を固定するためには議会費固定化方式も考えられる。」

○定数削減しても財政力指数が変わらない理由・・・他の支出にまわるだけだから。余剰金にならない。

## ◇議員報酬について（午後の講義）

○戸田市の報酬等審議会条例は、市長又は議会の諮問に応じ、と直した方が良い。

### ◎議員報酬を考えるにあたっての留意点

- ①住民の選挙によって選ばれた地方公共団体の特別職
- ②一般職の事務職員と異なり任期は4年しか保証されていないこと
- ③年金が存在しないこと
- ④退職金が無いこと。
- ⑤議員は対外的に職業として認識されていないこと

### ◎報酬算定の基準方式について

7つ

- ①市政への貢献度を把握し、それをもとに議員報酬を定める考え方
- ②執行部職員の給与を基準とする考え方
- ③国会議員の歳費を基準とする考え方

\*戸田市の場合

120万円分の仕事をしている。

- ④日当制を根拠に算出する方法

\*矢祭町の事例では、日当3万円

- ⑤当該団体の長の給与額を基準とする考え方

この考え方がスタンダードな感じであるが、根拠はない。

計算式に当てはめる場合、議員活動（職務遂行（職務）の計算が難しい。）この考え方は、現在の報酬の裏付けとしかされていないのは残念。

- ⑥比較方式

他市との比較では、戸田市は低い。

- ⑦議会費の割合を一定とし算出する方法

○委員長・副委員長加算はした方が良い。

○住民が議員活動をよく知らない中で、感情で議論しないことが望ましい。しかし、仕事量のみで決めるのが良いのかどうか。

### 所感

研修を終えて、「議員定数の議論は、報酬と合わせておこなうことが望ましい。そして、選挙の一年前は議員定数の議論はすべきではない。」というのが印象的であった。この度の議会運営委員会における議員定数の議論については、選挙1年前と言うことはあるものの市民の声であることも重く受け止めて議論を進めるべきであると考えている。感情論から減ありきの議論は市の将来を考えると危険であることが理解できた。また、二元代表制を揺るがす可能性があることも大事な視点であろう。また、根拠となる視点や算定方式の議論を十分にすることなく結論を出すべきではないと感じた。戸田市の場合は、講師が示した資料の写真をみると、むしろ増やすべきと言うことも指摘があったが、増減を考えるには何を根拠にして考えるかと言うことが大変重要であると再認識できた。

# 参考写真

☆ 常任委員会数方式 (戸田市・26人)

委員会 委員数	常任委員会 委員数	合計
8	4	32人

委員会での十分な討議・住民の意見反映ができる委員数

常任委員会制度の趣旨を満たす常任委員会数

☆ 小学校区方式 (戸田市・26人) 1票の格差を1.4で設定・計32名

小学校区	数値	議員数	小学校区	数値	議員数
戸田第一	3.4	4	戸田南	2.5	3
戸田第二	3.5	4	喜沢	1.2	1
親善	2.2	2	笹目東	2.4	3
美谷本	1.1	1	新曽北	2.5	3
笹目	1	1	美谷本	2.4	3
戸田東	3.6	4	戸田北	2.5	3

☆ 人口比例方式 (戸田市)

人口	議員1人当たりの住民代表数 (平成11年地方自治法による)	議員定数
140,642人	4411 (10~20万未満)	31.9人≒32人

☆ 人口比例方式 (戸田市)

人口	議員1人当たりの住民代表数 (現在の奥校による)	議員定数
140,642人	5464 (10~20万未満)	25.73≒26人

☆ 面積人口方式 (戸田市)

$$14.78 + 0.0846 \times 140 - 0.000655 \times (140 \times 140) + 0.0061 \times 18.19 = 25.48 \approx 26人$$

☆ 戸田市

10~20万未満市 (156市) 平均値	0.98	$26 \times 0.98 = 25.48 \approx 25人$
----------------------	------	--------------------------------------

☆ 常任委員会数方式 (戸田市・26人)

委員会 委員数	常任委員会 委員数	合計
8	4	32人

委員会での十分な討議・住民の意見反映ができる委員数

常任委員会制度の趣旨を満たす常任委員会数